

2014年12月10日  
テオリア第27号

定価 350円  
毎月10日発行  
定期購読料 年間 4000円  
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

# θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア  
東京都千代田区内神田1-17-12  
勝文社第二ビル101  
TEL & FAX 03-6273-7233  
ホームページ  
http://theoria.info  
E-mail: email@theoria.info

## 暴走はどこまで続くのか



総がかり国会包囲行動=11月11日

暴走は

どこまで続くのか

11月21日、ひと月前には予想されなかった衆院解散が行われ、12月14日総選挙が行われる。野党の準備が整わない内の解散で閣僚らの疑惑、アベノミクス破綻を隠し、4年間の任期延長を手に入れようとする目的があることは明白。安倍は総選挙の争点はアベノミクスだと、未だ成長幻想をふりまいている。  
第2次安倍政権の2年間で何が起きたのか。

「積極的平和主義」を称した国家安全保障会議設置、秘密保護法、立憲主義を破壊する集団的自衛権「合憲」閣議決定。沖縄新基地建設。隣国との対立。安倍によるメディア・教育支配。ヘイトスピーチ。年明けにも原発再稼働。被災者切り捨て。15ヶ月連続の賃金減少、増税、物価上昇。生活保護費引下げ。貧困・格差の拡大。敗戦70年を前にして暴走はどこまで続くのか。  
(11月21日)

### 年末カンパをお願いします

皆さん、研究所テオリアは10月5日第3回シンポジウムを開催、3年目の活動を開始しました。活動の継続のため、会費・購読料のお支払い、カンパをお願いします。敗戦70年を前に平和主義、立憲主義を根底から否定する動きが強まっています。対抗する思想、理論、社会ビジョンを探求していきましょう。

2014年12月

◆カンパ送り先

郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア

城南信用金庫神田支店 普通口座 口座番号2809573 口座名 研究所テオリア (信金への振込の場合はFAX、メールなどで振込内容をご連絡ください)

### 白川真澄『脱成長を豊かに生きる』出版記念の集い

日時 12月20日(午後1時半~) (開場午後1時15分)  
第1部 シンポジウム 脱成長で豊かに生きよう  
白川真澄、大河慧、高坂勝、天野恵一  
第2部 懇親会 午後4時  
場所 スペースたんぼ(水道橋駅)  
参加費 3000円(本代別々当日割引2000円)  
第1部のみ1000円

主催 研究所テオリア、ピープルズプラン研究所  
会評社

懇親会申し込み 03-6424-5749 (PPL研)  
Email: bookparty1220@gmail.com

### 国連・憲法問題研究会報告第60集

『集団的自衛権で「殺し殺される」自衛隊へ  
解釈改憲が戦争につながるカラクリ』

定価 500円  
清水雅彦

### 紙面紹介

誇りを示した沖縄県知事選 浦島悦子…………… 2~3面  
川内原発の再稼働を止めよう 木村雅英…………… 4面  
慰安婦問題―「奴隷制」であるとは(上)…………… 5面  
書評 白川真澄『脱成長を豊かに生きる』…………… 6~7面  
敗戦70年普選90年から見たアベノ解散の意味…………… 8面

# 安倍政権のむき出しの攻撃へ怒り ウチナンチュの誇りを示した沖縄県知事選

## 浦島悦子

名護在住、  
一見以北十区の会共同代表

### 10万の大差で勝利

沖縄県知事選挙（11月16日投票）では、これまでの日投開票では、これまで野古新基地反対を明確に訴



えた翁長雄志さん（前那覇市長）が36万820票を獲得して当選した。翁長さんは、前回の選挙で県外移設

を公約して当選しながら、昨年未、新基地受け入れに変わった現職の仲井真弘多知事（自民、次世代の党推薦、得票26万1076票）に大差をつけた。投票率は64・13%で、前回の選挙より、約3%上昇した。

も同じだったと思う。開票日は、私の地域が稲嶺市長の出身地ということもあって、選挙運動をやった人たちで地域の公民館に集まってお祝いをした。

陸上でも、沖縄防衛局はキャンパスシュワブのゲート前で資材搬入を止めるといふことで皆が集まったところに、地元の人々が殺人鉄板と呼ぶ鉄板を敷きつめた。

とでトラブルが起こりそうになるところという感じだった。そんなに敵対的ではなかった。那覇防衛施設局（当時）に雇われた作業員とも人間的な交流があったりした。結局、作業はほとんどできなかった。今回、政府は二度とそういうことをさせないようにと暴力的にやってきた。

悪い意味でも良い意味でも、10年前とは雰囲気全く違っていた。政府の攻撃も違っていたが、反対運動も層が厚みを増した。

この島ぐるみ会議が那覇から毎週バスをチャーターして、座込みに参加する。最初は大型バス1台だったのが、乗り切れない人が出たのでバスを増やして、参加者がどんどん増えるというのがあった。本当に県民のノーといううねりが大きくなった。私は体調もあり、現場にはいけなかったが、うねりをひしひしと感じる状況だった。だから、これはこのまま知事選に行くだろうなというのは感じていた。

前回（本紙17号）2014年2月10日は1月名護市長選挙での稲嶺進市長の勝利をうけて、天王山となる県知事選挙では保守政治家だった翁長雄志さんを統一候補としてたから展望を述べた。今回、これまでの保革や政党の枠組みを超えたたたかいで、新基地建設反対とウチナンチュの誇りを訴える新知事を誕生させることができ

1月の名護市長選挙の後、日本政府は示された民意を無視するように、強引に基地計画を進めてきた。調査のための資材搬入をさせないと、7月から辺野古のキャンパスシュワブゲートの座り込みが始まった。当初、沖縄防衛局は夜中に搬入したりしたので、座込みも24時間。日曜は休みだ

が、現在も座込みは続いている。そして、ボーリング調査のために海を囲い込む臨時制限区域が閣議決定された（7月1日）。立ち入り禁止の制限区域は大浦湾の半分を占める広い水域。制限区域の中に入ったら安保刑特法違反で逮捕という脅し。8月からの調査で海上保

私たち運動する側から言え、10年前も全国全県、海外からもいろんな人が応援に来てくれた。その力も大きかったが、それでも運動家と呼ばれる人が多かった。今回、運動家ではなく、本当に普通の人たちがたくさん集まってきたのが大きな特徴だった。特に8月に入ってからは海を囲うというのがあったりした。ゲート前と海で、海上保安庁を含めてどういふことか、沖縄の新聞も毎日毎日報道してく

8月は夏休み。家族連れが多くて、子どもたちが学校の宿題で辺野古の基地問題を取り上げて、おじいちゃん、おばあちゃんの世代に話を聞く。歌や踊りが出た。そういうのがけっこうあった。もちろん厳しい状況も時々あるが、全体的にはすごくいい雰囲気。

今回勝ったというのは県民の大きなうねり。大きなうねりを政治をやる人たちが受け止め、党利党略を引いた。新基地反対の一点で一緒にやろうと。名護市長選挙のとき、共産党が稲嶺さんを候補とす

まった。今回は早い段階で共産党が翁長さんを知事選統一候補に言い出した。これまで革新候補にこだわってきた共産党が元自民党県連幹事長の翁長さん擁立にいち早く賛成したので、ちょっとビックリした。今回共産党はえらかった。党の内部でどういふ話がさ

### 民意無視の強権的ボーリング調査

が、現在も座込みは続いている。そして、ボーリング調査のために海を囲い込む臨時制限区域が閣議決定された（7月1日）。立ち入り禁止の制限区域は大浦湾の半分を占める広い水域。制限区域の中に入ったら安保刑特法違反で逮捕という脅し。8月からの調査で海上保

### 普通の家族連れが辺野古にかけつけた

私たち運動する側から言え、10年前も全国全県、海外からもいろんな人が応援に来てくれた。その力も大きかったが、それでも運動家と呼ばれる人が多かった。今回、運動家ではなく、本当に普通の人たちがたくさん集まってきたのが大きな特徴だった。特に8月に入ってからは海を囲うというのがあったりした。ゲート前と海で、海上保安庁を含めてどういふことか、沖縄の新聞も毎日毎日報道してく

### 沖縄のアイデンティティでまとまった

今回勝ったというのは県民の大きなうねり。大きなうねりを政治をやる人たちが受け止め、党利党略を引いた。新基地反対の一点で一緒にやろうと。名護市長選挙のとき、共産党が稲嶺さんを候補とす

れて、そうだったのかはわからないが、「翁長は共産党になった」と自民党の側から攻撃されていたけれど。

今回、翁長さんは沖縄のアイデンティティというところでまとまろうと。保守も革新も互いに腹八分腹六分という言い方をしていた。

今は無党派層の人たちが多くて、その人たちの動向が選挙に大きく影響する。そういう無党派層の共感を。さまざまな主義主張はあるが、ウチナンチュとしての誇り、平和を求めるといのは自民党の人でも誰でも求める人間の基本的普遍的な価値。安倍政権になってから日本政府のむ

### 県議補選勝利の大きな意義

#### 大きな意義

知事選の陰に隠れた形だが、知事選と同時に沖縄県議補選が名護市区、沖縄市区、那覇市区であった。沖縄市区では自民党が当選したが、名護も那覇もうちゅの会が応援した翁長知事支持の無所属候補が当選した。

名護では候補者がなかなか決まらず、告示直前にやっと決まった。しかも、相手候補は1月の名護市長選挙で稲嶺市長の相手だった末松文信候補(元副市長)。彼が自分が辞めて空けた県議のポストにまた戻ろうとした。しかも、末松候補はかなり前から出馬表明

き出しの攻撃がひどくなつた、沖縄は差別されている、人権を踏みこじられている、このままいいたら、もう一度沖縄戦のようなことが起こるのではないか。そういう危機感がものすごく高まる中で選挙だった。

基本的な人権、平和というところでのみんなの意識、要求が高まって、今まで沖縄の政治をやってきた人たちも一致したということ。それ以外のことは棚上げしておいてということ、今回はいい結果をまねいた。

また、翁長さんは「基地は沖縄経済の最大の障害要因」と断言し、それに共鳴する経済人が彼を支えたことも大きかった。

し準備していた。「あいつを無投票当選させるのか、それは絶対いやだ」という思いがみんなにあるが、候補がなかなか決まらない。皆やきもきしていた。

当選した具志堅徹候補は共産党で名護市議を42年務めていた。彼は前から引退の意向を示していて、9月7日の市議選挙では後継者が決まって勇退していた。名護市議選挙で後継の新人は無名だったが、市議会議員にトップ当選した。保守的な名護で共産党がトップ当選というのはこれまでなかったことだ。そういう意味では様変わりした。市民

意識も変わってきている。具志堅さんは共産党出身だが、稲嶺与党の名護市議14人が一致して推した。選挙では、稲嶺市長と一緒に運動し、翁長さんが名護に来ると一緒に動いた。那覇でも共産党の那覇市議だった人がうまんちゅの会に推されて無所属で当選した。

県議補選で負ければ県政運営はかなり厳しくなることだったが、2人が当選して県議会で、48議席中翁長支持が25人となった。過半数をやっと超えた。もう1人落としていけば過半数に届かないところだった。が、何とか取ることができた。沖縄市区を自民党に取られた以外は、理想的な選挙結果だった。

### めざすべき社会は

付け加えたいのは、辺野古に新基地を造らせないと、というのが一番大きな課題で、それで県民がまとまった。それだけではなく、沖縄がどういう社会をめざすのか。めざすべき社会像はどういうものか。「辺野古に新基地を造らせないと」を通して、みんなが考えないといけない。

翁長さんは「3つのノー」を言っていた。辺野古の新基地・オスプレイ・ノーはもうろん言っていたが、格差社会にノー、原発にノーとはっきり言っていた。仲井真候補は電力出身で、原発をつくりたいというのはあったのだろうか。原発は今のところ沖縄にないのだから、知事選の大きな争点ではなかったが、原発にノーと言ってくれたことは、こ

### 沖縄隠しの解散

日本政府は「過去の問題だ」「今回の選挙結果にかかわらず、移設計画を進める」

日本政府は「過去の問題だ」「今回の選挙結果にかかわらず、移設計画を進める」と言っている、沖縄県知事選挙終盤になつてきた。日本政府は沖縄の県知事選挙の結果に對して、見て見ぬ振りをするたいかもしれないが、それはできない。沖縄から見ると、今回の解散は政府が沖縄で自分たちが負けたということがあまり大きく報道されないようにする目くらましの気がする。もちろん、消費税の問題なども大きいだろうが。全国マスコミの報道では、総選挙で沖縄の問題がかなり消されてしまっているというのをすごく感じる。

### 巨大な力に抵抗する

現在、辺野古の海上ボーリング調査は途中で、陸上と浅場は終わって深場の調査が残っている。深場の調査は大型のスパット台船を持ってこないといけない。それを待つてくれれば大騒ぎになる。知事選というものもあって、今は止まっている。もうひとつは、名護市長が市長権限を行使するというところで、市の権限の及ぶ範囲では一切協力しない。それで一部設計変更をするということ、国は設計変更申請を沖縄県に今出している。その結論がまだ出ていない。それを知事が許可するのかが問題がある。

新聞報道では、県の内部では先送り、新知事に委ねようという流れが強い。だが、現知事でやるべきだという声がありあるとか。仲井真知事の任期が12月9日までなので、多分日本政府から圧力がかかっていると思う。その間のハンコを押して逃げを許さない。新知事になったら、翁長さんは知事権限を最大に使おうと、許可はしないだろう。

全国的な人がどれくらい考えているのかが問題。沖縄はこれだけ何回も基地反対の意思表示をしているにもかかわらず、沖縄の問題として押し込められてきている。

翁長さんは「国土面積の0.6%の沖縄に74%の米軍専用基地がある。来年にどうやって考えてもらうかが、大きな課題だ。」

総選挙があるので、その間は調査をやらなければならない。選挙が終わったら、どっかとやってくるんじゃないかと考えている人たちがいる。いま予測はできない。辺野古の環境アセスメントで環境部が基地建設工事で環境に影響を与えないのは不可能という意見を出していたのにかかわらず、仲井真知事は法的な瑕疵はないと、政府の申請を認めてしまった。

翁長さんは、知事になったら本当に法的瑕疵がないのか精査する、他に落ち度がないのか。法的に瑕疵があれば承認取り消し、それ以外なら撤回という形になる。日本政府は法的にそういうことはできないと言っているが、本当にできないのか精査する。

新知事には、そういう形がなければならぬ。翁長さんは稲嶺市長と組んで基地を造らせないためにあらゆることをやっていると、日本政府に基

地計画撤回を求めにくくするか、稲嶺市長と一緒に訪米するとか。具体的にいつど

のような形でやっていくのか、まだ判りませんが。が、めめるなど、いろいろ準備は止めるというのは、相手している。現場としては、巨大なので簡単にはできなく、もし海に何かあれば、すぐに海に出られるように力を入れている。11月18日(註：知事選から3日後)の「政治的決着」を待つということになる。

私たちがともかく現場で作業を強行再開。現場は再び緊迫が高まっている。

### 国連・憲法問題研究会報告集

表現の自由を守るため  
「イトスピーチ処罰を前田朗  
新自由主義と国家主義の傘に覆われた世界で  
「9.11」から40年／「9.17」から11年  
太田昌国  
レイシズムと安倍政権  
なぜ隣人を「憎む」のか  
安田浩一

定価 各500円

### 脱成長を豊かに生きる

ポスト3・11の社会運動  
白川真澄 著  
世界的なシステムの歴史的な危機のなかで、成長神話に挑み脱成長の社会像を探り、国境を越える民衆運動の同時代的課題を問う社会変革へのアクチュアルな提言

2400円十税  
四六判256頁／2014年10月30日刊  
社会評論社  
※研究所テオリアでも扱っています。

# 何としても川内原発の再稼働を止めよう 2度と過ちを繰り返すな

## 木村雅英

再稼働阻止全国ネットワーク  
経産省前テントひろば

### 川内原発再稼働 問題の現状

原発再稼働の筆頭に選ばれた鹿児島県薩摩川内市の川内原発1号機・2号機は、去る9月10日に原子力規制委員会が設計変更に対して審査書(合格証)を決定し、現在規制委が工事認可・保安規定の審査を行っており、年明けには再稼働かと報道されている。

えられるのか、火山への対策が本当に出来るのか、：をしっかりと監視し、形式的であってもパブコメをさせる必要がある。

更に当初から地元・周辺住民から不信感を持たれてきた避難問題も全く絵に描いた餅でしか過ぎず、特にIAEAが言う深層防護第5層を満足できないで再稼働を容認しようとする規制

### 薩摩川内市の「同意」

去る10月28日に薩摩川内市議会臨時本会議が開催された。市の職員総出で本会議場をガードして会議を強行、台風で延期されたいちき串木野市の住民説明会がその日の夜に予定されていたにもかかわらず、傍聴席からの抗議の声が強く退出者も数人出たにも関わらず、多数の再稼働反対の陳情を可決した。そして、岩切秀雄市長が「原発の再稼働を進めるとい

去る10月28日に薩摩川内市議会臨時本会議が開催された。市の職員総出で本会議場をガードして会議を強行、台風で延期されたいちき串木野市の住民説明会がその日の夜に予定されていたにもかかわらず、傍聴席からの抗議の声が強く退出者も数人出たにも関わらず、多数の再稼働反対の陳情を可決した。そして、岩切秀雄市長が「原発の再稼働を進めるとい

### 鹿児島県の「同意」

続いて、県知事の招集で11月5日〜7日に臨時県議会が開催された。地元「同意を簡単にさせてはなら

11月5日〜7日に臨時県議会が開催された。地元「同意を簡単にさせてはなら

人たちが県庁前に大きなテ

人たちが県庁前に大きなテ

40年間補助金が落とされてきたにもかかわらず地域が疲弊していると逆襲してい

の言い争いが終わりの議場が静かになって本会議開始。柳議員(県民連合)、松崎議員(共産党)、下鶴議員(無所属)の討論中には傍聴席から多数が不規則発言、異常な雰囲気の中で議論が進められる。

いよいよ議長が採決実施を宣した瞬間に、誰もな

東電福島第一原発事故(イチエフ)の責任は、一番に東電にあるが、国としては原発を推進し原発を規制してきた経産省と資源エネルギー庁にある。彼らは、原発は安全だ、原発は安い、原発無しでは電力足りない

原発のコストが安くないことも多々述べられているが、11月13日の経産省の有識者会議「原子力小委員会」に事務局が出した「中間整理案」で一層明らかになった。電力事業が自由化された後も国が原発事業による収益を保証し、損失が生じる場合には電気料金に上乗せできるようにするなど、原発優遇策の必要性を盛り込んだのだ。

更に、原発が無くても電力が足りていることは、420日(1年2カ月)以上も日本列島で原発稼働無しで過ごせることが証明されている。すなわち、原発は安全でなく、安くもなく、原発無くても電気は足りているのだ。歴代の自民党政権や経産省や資源エネルギー

推論論のおかしさ

薩摩川内市でも同じだったが、再稼働を容認する議員や自治体の長のよりどころは、国が再稼働推進を認

反対運動の課題

イチエフは収束せず、被害者は償われず、労働者には無法な被曝を強要(現在、

放射線審議会が基準を緩めようとしている)し、避難者に帰還と被曝を強要している。イチエフ敷地に増える放射能汚染水タンクと、あちこちに増え続ける除染ゴミのフレコンバッグの山が、福島現状を象徴している。

更に原発が「安全、安い、電気足りない」の嘘があきらかになった。規制委の種々の「科学的・技術的」提言や新規制基準や審査そのものが、全く信用できないことも明らかだ。

更に「トイレ無きマンション」問題は全く解決していない。日本学術会議は、地層処分では未来まで安全とは言えない、使用済み核燃料の総量を把握しその始末の仕方を明らかにしてから原発の推進を考えるべきと主張している。

首都圏では、これらのことを機会ある度に強く主張して多くのメディアに報道させ、原発現場では巧妙に再稼働を目論む「原子力マフィア」に負けないで再稼働阻止をする団結と工夫が求められている。

最後に、都道府県会館の福島県東京事務所で入手した「福島県温泉トラベルマップ」の福島第一原発付近に印刷された朱色のスタンプ文を紹介する。

「私たちの福島県は原発事故という人災によって、今も多くの人が苦しんでいます。私たちは2度とこのようなことが起きないよう心から願います。」



九州電力は川内原発の再稼働をやめろ!

# 慰安婦問題——「奴隸制」であるとは、

## どういふことなのか (上)

河合成彦

### 「ニューライト」 安秉直の本

慰安婦問題に関する前稿「ねつ造はどちらか 朝日慰安婦報道訂正をどう見るか」(本紙24号)で、十分に書かなかったことがある。

「最近の研究の進展で、慰安婦の置かれていた状態にもさまざまなものがあった」ということは、わかっている」と書いた部分について、何らかの反応があるかと思っただけだが、特になかった。

去年、今では韓国のニューライトの重鎮と目されている安秉直ソウル大学名誉教授が『日本軍慰安所管理人の日記』という本を出した。日本でも毎日新聞などが報道したが、その本は、安秉直が発掘した、慰安所の管理をしていた朝鮮人の日記で、主にハンケルと漢字で書かれた一部日本語まじりのものの現代韓国語訳と原文を収録したものである。「鉄道部隊で映画(上映)がある」といって、慰安婦たちが見物に行っ

「貴は安秉直にインタビュをし、安秉直が「証言集」について、「この19人の証言も今思えば、本当に事実かどうか自信がありません」と安秉直が「ため息をつきながら」語ったと述べたところ、「河野談話はおかしい」と述べたなど書いています。

しかし、あらかじめ決められた結論に合わせた「常識」にとらわれ、それ以外のものを見ないという態度が度を越したものであることも指摘しないわけにはいかない。こうした記録から読み取るべきことが何なのか、きちんとさせることのほうが重要だ。

### 文春のねつ造

その前に、この本に関連した出来事について、整理しておく。

日記を発見した安秉直は、もともと韓国を代表する左派の経済学者であったが、本人が語るところによると、1985年から東京大学で研究中、社会主義国出身の研究者がマルクスや毛沢東の理論に関心が薄い様子に触れたのがきっかけで、考えを変えたという。1993年に韓国挺対協が出版した証言集の調査に加わり「解説」を書いている。その後、挺対協と距離を置

き、韓国国内で「慰安婦が強制動員された客観的な証拠は見つかった」といふ言いが波紋を呼んだ。日本の右派メディアは、当然のごとく、こうした状況を利用しようとした。こので「言論の自由のない韓国が、正義の発言をしている安秉直を弾圧している」というふうな脚色して伝えようとした。だが、どうもやり過ぎたようである。『週刊文春』4月10日号に掲載された「慰安婦調査担当韓国教授が全面自供」で、ライターの大高未

「朝日新聞が最後にする『慰安婦聞き取り調査』担当ソウル大名誉教授安秉直のウソを暴く!」という記事を書き、今度はウソつき呼ばわりをした。言うまでもなく、安秉直の主張を持ち上げて利用しようとしたのは朝日新聞ではなく『週刊文春』なのであり、ただ利用するだけではもの足らず、発言の改ざんまでしたことがバレて逆切れするという醜態をさらしているだけなのであるが、そんな記事載せている週刊誌が電車のつり革広告に大々的に載っているのが、この国の現状でもある。



日本軍「慰安婦」問題Webサイト制作委員会の集会＝10月26日

い限り、事例調査に多少不明確な点があるからといって河野談話を否定することは日本にとって得策ではない」ということだったという。

最近の安秉直は、日本の保守派と仲良くしてきたようであり、慰安婦問題に関して行った発言について、

### 上野千鶴子の批判を どう受け止めるか

「慰安婦が軍に強制され制連行された」という「常識」にあえて異議を唱えたことを理由に、著作まるごと、こうした部分の記述も含めて無視しているようだ。別の保守派の新聞は、本からそれ以外の「常識」に合う部分のみを探してき

「それでは、このような資料をどう受け止めるべきだろうか。」

すでに90年代に、上野千鶴子は「モデル被害者」という言葉を使って、より無垢かつ悲惨な被害者モデルを求めようとする志向を批判している。慰安婦にされた被害者は、なにかの目的のために被害者になったわけではない。ただ、理不尽な被害を受けたというだけで、告発する権利を有している。上野の主張は、被害者の強制性を否定するものとして誤解する人もいたが、それは誤解というよりは、立場を作った「常識」を守るための意図的な曲解であっただろう。むしろ、私たちのほうが、「モデル被害者」からはずれた被害者の告発を受け止めようというのを問われているのである。

また、当時、倉橋正直という研究者が、慰安婦には「売春婦型」と「性奴隸型」があるという主張をして、運動圏ではおおむね不評を

「慰安婦が軍に強制され議論を批判的に超えるためにも大事なことである。」

安秉直は、上記書において、シンガポールにおける慰安所では「廃業」「帰国」の記述が多いこと比べ、ビルマの慰安所ではそうした記録がなくなるところから、毎日新聞のインタビュに対して、「ビルマのような最前線では、前借り金を返済しても簡単に廃業できなかった。所属部隊の管理を受けており、旧日本軍の編成の末端に位置づけられていた。『性的奴隸状態』にあったと言える。」と述べている。だが、かつての公娼制度において、前借り金を返済すること自体がきわめて困難な仕組みになっていたことは、多くの研究で明らかになっている。楼主はさまざまな名目で、客をとらない女郎から「罰金」をとり、衣装代を「貸し出し」にして給料から返済させるなどのことを行っていたのである。

さらに、冒頭の「郵便局を通じて送金」という部分はシンガポールでの話で、慰安婦の入れ替えも行われていたようであり、送金もひんばんにされていたところから見て、ある程度の期限内で前借金を返していたようである。一方、安秉直自身が性的奴隸状態と呼んだビルマでは、契約の期間が過ぎて帰りたいといっても帰してもらえない事例があったことが、「日記」から

もつかえる。(つづく)

評

政治的な選択としての「脱成長」の問題提起

白川真澄『脱成長を豊かに生きる』

ポスト3・11の社会運動』を読む

書

東日本大震災から3年半、大地震と原発事故があつたにもかかわらず、安倍政権は「成長神話(成長なければ国民の幸福はない)」「原発再稼働・輸出」路線を突っ走っている。

被災地(避難地帯)での苦悩と格闘が続き、庶民には「今度大震災が来たらおしまい」という不安、安寧であるべき日常を取り戻せない日々、を押し付けている。政府は、そして日本社会は、もう一度、事故が起きなければ、「経済成長・原発」をやめないのか? 今の今、「成長路線」「原発再稼働」を主張する政治家、官僚は、その責任を「神話」に転嫁できない。「確信犯」である!

今、安倍政権は「衆議院解散・総選挙」を選んだ。

この著を読んでみると、自分自身の今までの暮らしの変化が、資本の動きとながって思い出されてくる。戦後、生まれて間もなく

戦後をなぞる  
資本主義のしたたかさ

争点は「消費税10%へのアップ延長の是非」という。そんなもの、争点にならないことははっきりしている。黒田日銀総裁は10月31日、「追加金融緩和」の「サプライズ」「劇薬」で安倍を助けようとした。しかし今回の解散・総選挙は、その「劇薬」をもってしても「三本目の矢・成長」はもたらされないことの自己暴露であり、重ねてそれを隠

そうという政局の(日銀に続く)「劇薬」であることははっきりしている。「成長戦略の柱」と謳いあげ、担当大臣まで作った「地方」「女性」は、またしても、あつさり、投げ捨てられた。そういう状況の中、この著書が出た。「あくまでも政治的な選択」としての「脱成長」の問題提起の書である。

主体的に闘うこと。六〇年安保闘争の敗北感が漂うなかで、黙っているは何も変わらないと、労働者、反公害、部落解放、在日朝鮮・韓国人の取り組みに、それこそ学びながら学生運動に取り組んだ。

ある解説が展開されている。何度もの経済危機が起きるたびに、それぞれ「トカゲのしっぽ切り」で乗り切り、「中心-周辺」構造を絶えず再編・拡大・移動しながら、今、21世紀を迎えて「グローバル化」という事態を迎えている。そして外へ外へと広がっていった

説得力ある解説

あった。水島に石油化学工場が多かったから、一層そう感じたのかもしれない。「暮らし」という範囲の中で、これ以上、資本主義が作りだすものはない、という「限界」感である。

その説明、根拠を示していない。前提としているのだ。「概念」が生み出される「根拠」を追及することをモットーとしていたマルクスなのに、なぜ? しかも、公書を出す産業、あるいは人を殺す軍需産業での「労働」は、「価値」あるの? という疑問である。(価値は労働時間

だった。それが、「あなたのやりたい仕事は?」と誘いがかるまでになった。その「働き方の多様性」が、今の「非正規雇用の拡大」に結びつくとは想像も出来なかった。

引き続く「学び」と「妙な感覚」

では、その後はどうなったか。資本主義は何度も危機を迎えながらも、「革命」は起きなかった、起こせなかった。そして二つの「学び」と二つの「妙な感覚」

「資本」は恐ろしい、と感じたのは、60年代後半の「新左翼運動」「学生運動」の波が引いたとき、その運動が作りだした「社会文化」の変化も、資本はほとんど取り込んでいったことだ。

「中心-周辺」を産み出している、のである。そして「暮らし」の「妙な感覚」は(前記を踏まえて)深刻である。「やりたい仕事は?」と問われても、そんな仕事があるわけはない、「現場で覚える」余裕もなく、求められるのは「即戦力」。テオリア25号で紹介されているアイドルの悲惨な現状を、自らと重ね合わせる若い人たちは多いと思う。「持ち家政策」で「消費者」として丸ごと「食い物」にされた後で襲ってきているのは、パソコン、メール、ネットである。それらは「仕事」だけでなく日常のコミュニケーションにまで入り込んでしまった。資本は、手を変え品を変えながら、同じ市場の争奪戦を繰り返す、それを購入した消費者

この乳飲み子の時、親と旧満州)から引き揚げ、親戚を頼って九州から千葉を流転し、小学生のとき、たどり着いたのは大阪。一家四人の四畳半暮らしから始まった。親が小さな謄写印刷(と言っても今の皆さんにはわからないでしょう)が始めたころ、仕事場と寝る所が続いている部屋に移り、白黒テレビが入ってきた。それまでは、夕飯を食べ終わったら近所の友達の家に行って、歌謡番組を見せられていた。自宅のテレビで浅沼稻次郎(社会党委員長)刺殺事件を見たのは衝撃的であった(1960年)。当時の三種の神器はテレビ、冷蔵庫、

一つは「金本位制」の終焉の時であった(1973年ごろ)。「お金・通貨」と「実体経済」のつながりを何とかつなぎとめていた「金本位制」がなくなったとき、「儲けたい人間ばかりの金融・証券業界の中で、ど

「そうか」と膝を叩いて納得した「労働の価値」でも、そもそも労働が生み出す「価値」とは何か、が解決されていない。学習会で「搾取」がテーマになったとき、労働者(あなた)は一日8時間分の価値で企業に買われるが、産み出したのは16時間労働分の価値、その差額を企業に搾取されていると学んだ。でも、マルクスは「価値は労働が生み出す」「その価値は労働時間

「妙な感覚」の「金融」については、本書のメインテーマで、詳しく、説得力



もう一つの「学び」は、

一つの「学び」は、マルクスの「資本」と「労働」の概念を知ったことである。価値の源泉は「労働」にあり、その労働が生み出す価値を資本が搾取している、という考えに、膝を叩いて「そうか」と、納得した。

「そうか」と膝を叩いて納得した「労働の価値」でも、そもそも労働が生み出す「価値」とは何か、が解決されていない。学習会で「搾取」がテーマになったとき、労働者(あなた)は一日8時間分の価値で企業に買われるが、産み出したのは16時間労働分の価値、その差額を企業に搾取されていると学んだ。でも、マルクスは「価値は労働が生み出す」「その価値は労働時間

「妙な感覚」の「金融」については、本書のメインテーマで、詳しく、説得力

を与えられず、「イエスカ  
ノ」一気に入った、気に入  
らない」のそれを即断を  
求められる毎を送らざる  
を得ない。

### 新たな発見が 可能な状況

このように、暮らしの場  
は(労働含めて)目一杯、  
アップアップである。金融・  
財政は「1000兆円の赤字」  
を抱え、社会保障が危機  
を迎えることは明らかで  
ある。では、豊かな、安心  
して暮らす「脱成長社会」  
はどのようにして可能か。

著者は、「それは政治的選  
択」という。そう、経済危  
機がどのように苛酷で広範  
困で辛かろうと、弱者を切  
り捨て、弱者に矛盾を押し  
付けて乗り切るであろう。  
「危機」が、おのずから「脱  
成長戦略」を招くことはな  
い。それは確かにそうだ。  
では、「政治的選択」とは  
何か、どのようにして可能  
か。

今問題になっている消費  
税の問題。「税金が高いのは  
困る、でも社会保障のこと  
を考えると仕方ないかな」  
の間を揺れている(テレビ  
報道番組が流す街頭イン  
タビューでの市民の回答の  
傾向)「主体的・政治的」と  
はならないし、なれない。  
しかし、消費税だけではな  
く、所得税、法人税含めて  
「かくかくのために支払  
う」ことを民衆の力で決め  
ることが出来れば、その納

税は、「財布、給料から抜き  
取られる」のではなく「権  
利の行使」となる(憲法では  
税金ながら納税は義務とだ  
け記されている)。そのよう  
な主体的な運動が、それ  
を政治・社会のさまざまな  
領域、分野で起こることが  
求められている。

いや、本書でも紹介され  
ているように、地域での創  
造的取り組み(私たちが  
思い描く以上に)広がって  
いる。また、被災地での取  
り組み(たとえば書籍では  
「3・11後の持続可能な社  
会を作る実践学」など多数)  
は苦難の中からのわれわ  
れ、社会へのメッセージで  
ある。平凡で辛い日々の積  
み重ねも、見方を変えれば、  
「脱成長」という視点から  
見直すことで、新たな発  
見が可能な状況、といえる。

では、さまざまな領域で  
の人々の取り組みが、横に  
つながり、著者のいう「社  
会変革の新しい主体の原  
型」をもたらし得るであら  
うか。現在進行している経済・  
社会危機が、その契機とな  
りうるのだろうか。ここ  
が一番の課題、といえる。

たとえばアメリカでは  
「われわれは99%だ」と多  
くの人が立ち上がった、と  
いう。その「スローガン」を  
伝え聞いたとき、「日本では  
無理だな」と思った。だっ  
て、「みんな一人ひとりで、  
違っている」と。自分たち  
の「今」を言い当てること  
も受け止めきれない。「ち  
ょっと違うな」、そう

か、日本ではそこまで一人  
ひとり孤立しているの  
か、とも思った。アメリカ  
や西欧、中東の民衆の闘  
いの「波」は、私たち日本にお  
ける闘い取り組みを「同時  
代性」として押し上げる。  
しかし同時に、独自に「解  
決すべき課題をも明らかに  
し、共有することが求め  
られていることも間違いな  
い。

### 〈他者の呼びかけ〉 が聞こえるか？

ここではひとつ、他者との  
関係性を問題提起して  
おきたい。一つ一つの取  
組みが「横のつながり」を  
作るの、それこそ50年前は  
「敵が同じ、力を合わせよ  
う」であった。しかし資本  
主義の進行は「都市・農村」  
「中心・周辺」をはじめと  
して社会的な差別構造を  
隔々にまで作り出してきた。  
その結果、「反原発」と  
言っても、被災地の人々と  
都市の人々は取り組む内容  
やスタイルは違う。そもそ  
も福島原発が東京電力であ  
るように、「東京、都会」の  
暮らしは、「過疎・地方」を  
踏みつける上に成り立って  
いる。反原発で「同じ」と  
いう「関係性」を目指して  
は、「違つ」となってしまう。  
そうではなくて、同じ反原  
発と言っても、被災地と都  
会では、これだけ違うのだ、  
ということを知り合うこと  
と、「他者の発見」>「違いの  
相互発見」という関係性が

必要だ、と痛感する。違つ  
て当たり前なのである。そ  
の違ひをお互い発見するこ  
とによって、自らの変革す  
べき課題が、より底深く、豊か  
になる、と考える。  
(この「他者との関係性」  
はドイツ・ナチズムをかい  
くぐった哲学(レヴィナス  
など)からの問題提起。「ア  
ジアと日本」の関係、ナショ  
ナリズムや最近の「ヘイト」  
についても必須の課題と考  
える。)

世界の資本主義の危機が  
これからのような変化を  
もたらすのかは不分明であ  
る。先に述べたように、日  
本は「個が孤立」が極限に  
まで達している。だからア  
メリカの「私たちは99%」  
の「スローガン」は、日本では  
難しい、と述べた。しかし  
今後、日本における危機は、  
そのような「個の差異」な  
ど押しつぶし「やっばり私  
たち99%」の「スローガン」  
が若者たちから提出される可  
能性もある。

今、とにかく叫ぶこと、  
叫んで呼びかけることが必  
要である。そして叫びが聞  
こえたと、応えること、  
も必要だ。(田井)

「脱成長を豊かに生きる」  
ポスト3・11の社会運  
動 白川真澄著/社会評  
論社/2400円+税  
※研究所テオリアでも  
扱っています。

(8面から続く)  
JR東海はリニアの海外  
売込みに懸命だ。葛西敬之  
の名譽会長と親密なお友達  
安倍首相は、オバマ米大統  
領に5000億円を国際協  
力銀行経由で融資し、リニ  
アの技術を無償提供すると  
申入れた。交通機関は私企

### 広がる反対運動

JR東海の柘植康英社長  
は、11月12日の記者会見で  
リニア新幹線の補償の対象  
となる地権者は沿線全体で  
約5000人になるとの見  
通しを明らかにした。地上

業が運営するアメリカが工  
事費の高いリニアを建設す  
ることはまずありえない。  
もし多少でもオバマが関心  
を示したとすれば、それは  
軍事的利用を考えているか  
らではないかという憶測も  
生まれている。

を走行する部分に土地を持  
つ地権者と、地表から30m  
未満の場所にトンネルが通  
る地権者が対象である。こ  
の手続きにかなりの時間が  
かかるだろう。  
さらに移転問題がある。  
名古屋駅周辺で約70棟、地  
権者約120人。相模原の

橋本駅周辺の移転対象は明  
らかでないが、県立相原高  
校が駅敷地に含まれ、住民  
の反対運動が起きている。  
車両基地となる相模原の  
鳥屋地区も約40戸の移転が  
見込まれている。移転対象  
者だけでなく、残る人たち  
もコミュニティが分断され  
30mもの擁壁の陰で暮らさ  
なければならず、不満が渦  
巻いていた。この9月、住  
民が「地域を分断するリニ  
ア車両基地 北は監獄!南  
は超益地!絶対反対 団  
結!谷戸自治会」という看  
板を立てたのをきっかけに  
自治体も反対の態度を表  
明、自治会の会館前には反

対の看板が2本立った。  
78件の立退きが見込まれ  
ている岐阜でも絶対反対の  
声があるなど、沿線各地で  
住民の抵抗があるだろう。  
JR東海は代執行も視野に  
入れているが、住民の抵抗  
がどこまで広がるかが、こ  
れからの展開に大きな影響  
をあたえることになる。

リニア中央新幹線につい  
ては国会での議論はほとん  
どなかったが、この半年の  
間に国交委員会での質問、  
国会議員の現地視察など動  
き出した。福島みずほ参議  
院議員はリニアで40分の  
コースを2日間かけて現地  
を回り、住民たちと懇談。

ず、住民の意志を無視し、  
資本の利潤追求のみを図る  
許しがたい態度である。第  
3滑走路を断固粉碎しなけ  
ればならない。(中略)

## 12・14三里塚ー東峰現地行動へ

### 成田空港「第3滑走路」計画粉砕!

政府ー国土交通省は成田  
「第3滑走路」計画を打ち  
出してきた。これは羽田、  
成田などの首都圏空港の中  
長期的な発着枠の拡大を目  
指す「首都圏空港機能強化  
技術検討小委員会」(委員  
長・家田仁東大大学院教授)  
が出したものである。委員  
会は技術的な面に絞って可  
能性や選択肢を洗い出すと  
いう位置付けで、滑走路増  
設や発着時間制限の緩和な  
ど「タブーなし」(家田委員  
長)を掲げて検討を行って  
きた。家田は「短期的には  
東京五輪がターゲット」と  
しつつ発着枠の拡充策を検

討すると述べている。  
成田はすでにLCC(格  
安航空会社)の要請を受け  
て、昨年から騒音下住民の  
反対を押し切って夜間飛行  
制限を午後11時から午前0  
時まで延長している。国  
交省はこの際、朝6時から  
の着陸を5時から早めよ  
うとしたが、地元はそれを  
認めなかった。

「委員会」は成田の3本目  
の滑走路について案を提示  
しているが、平行(B)滑  
走路の東側に並行した計画  
が出されている。これらは  
いずれも新たに滑走路建設  
のために多くの住民を強制  
的に移転させ、農地、山林  
を破壊し、騒音地域を拡大  
することである。この様な  
計画を出すこと自体、三里  
塚闘争の歴史を何ら顧み

ず、住民の意志を無視し、  
資本の利潤追求のみを図る  
許しがたい態度である。第  
3滑走路を断固粉碎しなけ  
ればならない。(中略)

### 横堀現闘本部破壊を 許さない

政府・国交省ー空港会社  
は空港機能の拡充を目指  
し、反対派の用地内の農地  
や一坪共有地を裁判に訴え  
て司法権力を使って強奪し  
ようとしている。

反対同盟の横堀現闘本部  
も土地は最高裁の決定で奪  
われた。空港会社は誘導路  
を拡張するために建物の除  
去を求める裁判を起こし、  
現闘本部を破壊しようとし  
ている。千葉地裁で闘われ  
ている裁判闘争に勝利しな  
ければならない。

12月14日現地に結果し、共  
に闘おう!  
成田空港「第3滑走路」計  
画を撤回せよ!横堀現闘本  
部裁判勝利!年間50万回飛  
行、飛行制限時間緩和を許  
さない!反原発一再稼働や  
めろ!TPP反対!12・14  
三里塚ー東峰現地行動

●場所:旧東峰共同出荷場  
跡(成田市東峰65-1)、開  
拓道路に向けてテテ

●会場への行き方:東成田  
駅地上12時結集/迎車待機  
(10:34発京成上野(特急)  
↓11:42着成田11:52発↓  
11:58着 東成田)

●主催:三里塚空港に反対  
する連絡会  
連絡先:千葉県山武郡芝山  
町香山新田90-5/電話:  
FAX0479-78-81  
01

# 敗戦70年・普選90年から見た アベノ解散の意味

議と村山談話に反対する右派議員グループの中心メンバーとして歴史修正主義の運動を開始。これらがその後20年の格差・貧困と排外主義の拡大につながった。アベノミクスで何が起きたか。株高と円安だ。第2次安倍政権発足時、約1万円だった平均株価は現在1万7千円前後。円は1ドル85円から117円前後と大幅な円安が進んだ。機関投資家やトヨタなど大企業はアベノミクスの恩恵を享受。原材料を輸入する中小企業は大打撃を受けた。

アベノミクスは既に破綻している。解散表明直前の11月17日公表された7-9月四半期実質GDPはマイナス1.6%と4-6月期に続いてのマイナスとなった。予測はそろって7-9月はプラスになるとしているが、消費増税の影響が3ヶ月で収まるわけはなかった。

## 沖繩隠し解散と自己決定

解散は沖繩隠し解散でもある。安倍政権は昨年12月6日、国家にとって都合が悪い秘密の存在すら隠す秘密保護法の制定を強行。さらに「憲法解釈」の最高責任者は私だと、集団的自衛権「合憲」の閣議決定(7月1日)を強行した。

菅官房長官は総選挙の争点を決めるのは政権であるとして、集団的自衛権、秘密保護法は争点にならないとした。ガイドライン再改定作業を進め、総選挙期間中の12月6日に秘密保護法を施行しようとしているのに、すさまじい言い草だが、今の政治システムでアジェンダ設定するのは政権党であり、マスメディアであるのは事実(それ自体問題だが)。それにまららず、菅発言には有権者は政党・政治家を選ぶだけで選挙が終われば政策は政府・政治家に白紙委任すべきだという安倍自民党の政治観が如実に現れている。

アベノミクスで経済が改善すると思っていない層、原発再稼働に反対する層でも自民党支持が少なくないのが現状だ。経済成長によってしか、生活や格差の問題は解決しないという「成長神話」に全ての国政政党が囚われている反映である。格差を拡大し続ける成長のあり方そのものが問い直さなければならない。

解散は沖繩隠し解散でもある。安倍政権は昨年12月6日、国家にとって都合が悪い秘密の存在すら隠す秘密保護法の制定を強行。さらに「憲法解釈」の最高責任者は私だと、集団的自衛権「合憲」の閣議決定(7月1日)を強行した。

菅官房長官は総選挙の争点を決めるのは政権であるとして、集団的自衛権、秘密保護法は争点にならないとした。ガイドライン再改定作業を進め、総選挙期間中の12月6日に秘密保護法を施行しようとしているのに、すさまじい言い草だが、今の政治システムでアジェンダ設定するのは政権党であり、マスメディアであるのは事実(それ自体問題だが)。それにまららず、菅発言には有権者は政党・政治家を選ぶだけで選挙が終われば政策は政府・政治家に白紙委任すべきだという安倍自民党の政治観が如実に現れている。

## 未完の普選運動

敗戦をさかのぼる20年前、1992年普通選挙法(男性のみ、女性、植民地は排除)が成立した。だが、真の普通選挙は90年近く経っても実現していない。

前回投票率は約59%で戦後最低。今回も投票率が下がれば、固い支持基盤を持つ与党有利と報道されている。低投票率には様々な要因がある。2倍以上の一票の格差、無所属・少数政党

に不利な小選挙区制度、公選法が戸別訪問禁止をはじめ選挙運動に様々な規制をかけて選挙運動の機会・関心を奪っていることが一因だ。また、高額供託金によって無所属、小政党の多くは立候補困難で被選挙権を奪われている。他の先進国で供託金はないか、日本より二桁少ない。供託金制度は男子普通選挙と同時に(治安維持法も)、納税額による制限選挙に代わる無産政党排除のための制度として導入された。諸外国では例を見ない戸別訪問禁止をはじめ、日本の選挙制度は「選ばれる側」の都合で作られてきた。

そもそも、開票結果確定が最優先され、選挙権が奪われる日本の選挙制度がおかしい。住民票がないホームレスや一部の障害者は最初から選挙権を奪われている。さらに開票開始時間に到着しない海外投票、不在者投票は全て無効になる。投票意欲がわくかどうか。海外主要国では投票日まで発送した郵便投票は有効で、開票最終確定は数週間後が珍しくない。日本では有権者の参政権保障より、投票される側の都合が最優先されている。普選運動は未完なのだ。

敗戦70年の20年前の95年。非正規雇用拡大を打ち出した日経連「新時代の日本の経営」が出され、非正規雇用が拡大。同年、安倍晋三は「終戦50年」国会決

だが、世論調査を見ると、だが、世論調査を見ると、

## 結論ありきでリニア中央新幹線計画認可

### JR東海が来春にも建設着手

10月17日、国土交通大臣がリニア中央新幹線の工事計画実施を認可、JR東海は来春にも建設工事に着手すると見られている。

2011年5月の国交相の建設整備計画決定は様々な問題点をはらんでいた。第1に、JR東海を営業主体、建設主体に指名したことである。もともと中央新幹線は全国新幹線鉄道整備法のなかで建設することになっていた。国が建設し、JR各社に貸し出すという方式である。しかし、中央新幹線は建設順位が最後になつていたので、JR東海は全額自己負担で建設することを申し出て決定を得た。この事業は国家(的)事業なのか、民間企業の事業なのか? JR東海は巧みに使い分けていく。今後反対住民による認可取り消し行政訴訟が行われれば、争点の1つとなりうる。

第2に、白神山地と並ぶ原生の自然が残る南アルプスにトンネルを掘るルートが選定されたことである。本州に唯一残る生態系・生物多様性が破壊される。そしてこの地は、糸魚川-静岡構造線、中央構造線など第一級の活断層がある地震多発エリアでもあり、中央構造線特有の複雑な地質で、地すべり・崩壊・突発的な出水事故の多発地帯でもある。

### 変わらない住民無視

沿線自治体や住民は、情報を出しにしかださないJR東海へ不信がつのっていき、環境省も国交省も住民を軽視して結論ありきで環境影響「地域住民などに對し丁寧な説明すること」をJR東海に求められている。

このJR東海の傲慢な態度は、今後反対住民が行政訴訟を起こした場合、訴訟を支持する広範な裾野をつくるだろう。

現在、JR東海は沿線各地で事業説明会を開いている。私が住む川崎の説明会では、JR東海の住民無視の態度は相変わらずだ。都合の悪い質問には答えなない。「山梨実験線が故障を想定した実験をしたのか」という質問は完全に無視。大

深度法では支持基盤より10m以上深にトンネルを掘るとしているが、ルート上の住民が地質調査を要求しても「川崎の支持基盤がなだらかに安定しているのだから設定した調査地点で大丈夫」と答える。住民から「温泉掘削のためボーリング調査をしたら、地下600mまで砂利だった。温泉のロビーにそれが表示してある」と指摘しても、「シールド工法だから大丈夫」と繰り返すのみ。その地で地面が陥没し、校舎が傾いたと言っても、同じ答えが返ってくるだけだった。

また、品川区の説明会では、「車椅子の知合いにパンフレットを工部渡したいのでほしいと受付で話したが断られた」と問いただした住民に「このパンフレットは説明会に来た人に渡すものだ」と返答。「JR東海は弱者に何の配慮もしないのか」と質問者を激昂させた。

### マスコミの変化

リニアは世界に誇る新しい技術だと称賛を浴びせていたマスコミの論調に、ここへきて変化が見えてきた。朝日、毎日や地元の新聞社は以前から拙速な推進をやめるという論調があっ

リニアの引き起こす課題が指摘され始めている。その1つに残土の問題がある。ルート86%がトンネルのため、汚泥やコンクリートも含め6379万立方メートル、東京ドーム51杯分の膨大な残土がでる。残土運搬や残土処理場による環境・生活への影響は大きい。それにもかかわらず、どこにどのように運ぶのか具体的に明らかにされた場所はずかしく、それも標高2000mの南アルプスの稜線という山崩れ必至の場所を含んでいる有様だ。各自治体の環境影響評価審査会でも「これでは審査もできない。JR東海は情報を開示せよ」という意見が相次いだ。これも国家的プロジェクトということに押し切り、さらに残土置き場の設置については沿線自治体に協力を求めている。

また、採算性の問題も再三マスコミで取り上げられている。これからの少子高齢化社会、特に生産人口の減少が著しい日本では、東京-大阪間9兆円の工事費用を捻出し、その後も健全な経営ができるのかという指摘である。2013年9月18日の記者会見で山田佳臣社長(当時)は「リニアは絶対ペイしない」と記者会見で発言している。国家的プロジェクトだからと税金が投入されるのではないかと危惧されている。